

様式 17

煙火製造施設定期自主検査結果表

製造所の附近にある 保安物件の名称		当該保安物件から最短 距離にある危険工室等	保安距離及び当該 保安物件までの距離	土堤・簡易土堤 又は防爆壁の別	判定	
第一種		爆発 ・ kg	m ・ m		適・否	
		発火 ・ kg	m ・ m		適・否	
		一時置場 ・ kg	m ・ m		適・否	
第二種		爆発 ・ kg	m ・ m		適・否	
		発火 ・ kg	m ・ m		適・否	
		一時置場 ・ kg	m ・ m		適・否	
第三種	(事業用・非事業)	爆発 ・ kg	m ・ m		適・否	
		発火 ・ kg	m ・ m		適・否	
		一時置場 ・ kg	m ・ m		適・否	
第四種	(事業用・非事業)	爆発 ・ kg	m ・ m		適・否	
		発火 ・ kg	m ・ m		適・否	
		一時置場 ・ kg	m ・ m		適・否	
検査項目	検査内容			補正修正事項	判定	
標 識	製造所入口付近の見易い場所に掲げているか。				適・否	
掲 示 板	避難方法、消火活動等は明記されているか。				適・否	
境 界 柵	危険区域の周囲に、無用者が容易に立ち入れないように設けてあるか。				適・否	
警 戒 札	危険区域の入口、危険区域及び製造所との境界の必要な箇所か。また、見易い場所であるか。				適・否	
防 火 用 空 地	森林内は境界柵沿いに巾2m以上維持されているか。				適・否	
危 険 区 域 内	施 設	作業上やむを得ないものか。また、必要としなくなったものではないか。				適・否
	気かん室	固定燃料を使用していないか。				適・否
	保安間隔	停滞量に応じた距離は維持されているか。				適・否
	爆発の危険工室	構造、材料は火焰、爆発に対して維持されているか。				適・否
	一時置場	煙火の種類、停滞量により避雷装置を要するものではないか。				適・否
	発火の危険工室	耐火構造は維持され、防火壁を要するものではないか。				適・否
土 堤	こう配、高さ、厚さ等の基準は維持されているか。				適・否	
簡 易 土 堤	〃				適・否	
防 爆 壁	位置、構造、材質等の基準は維持されているか。				適・否	
防 火 壁	延焼を防止できる構造は維持されているか。				適・否	
延焼遮断装置	常緑樹に枯れ等の異常はないか。				適・否	

検査項目	検査内容	補正修正事項	判定
避雷装置	別紙点検表のとおり・・・・・・様式45		適・否
消火装置	貯水池等の水量、消火栓の機能は正常に作動するか。		適・否
危険	防爆式構造	構造、厚さ、屋根、防爆面等の基準は維持されているか。	適・否
	扉	外側に開き、避難し易いか。金具には鉄と摩擦しない様真ちゅう等が使用されているか。	適・否
	窓	ガラスは不透明なものを使用しているか。	適・否
	内面	土砂類のはく落、飛散を防ぐ構造に異常はないか。	適・否
	床面	鉄類は表われていないか。	適・否
	原動機	設置は隔壁で完全に仕切られた別室であるか。	適・否
	機械器具	確実に固定され、動揺、部品の脱落、腐食のないよう管理されているか。	適・否
	照明設備	電燈の安全な防護措置に異常はないか。また、室内に電動線の表われはないか。	適・否
	機械設備	金属部の接地に異常はないか。	適・否
	火薬類の粉塵の飛散	カバー等の防止措置に異常はないか。	適・否
	加圧設備	ストッパー、圧力計の作動に異常はないか。	適・否
	乾燥設備	温度測定装置は正常に作動するか。	適・否
	加温装置	火薬類の侵入しない措置に異常はないか。	適・否
	静電気の発生	帯電防止剤等の静電気除去措置に異常はないか。	適・否
	掲示板	火薬類の種類、停滞量、原料の種類、存置量、定員、取扱心得等は明記されているか。	適・否
	入室	入口	静電気除去設備に異常はないか。
火薬類の飛散		天井、内壁に隙間はなく、水洗に耐え、表面は滑らかになっているか。	適・否
普通木造建築物	危険工室に面している場合の耐火措置は良いか。		適・否
日乾場	乾燥台の高さは良いか。また、放冷設備を要するものではないか。		適・否
廃薬焼却場	周囲の樹木雑草等は伐採してあるか。		適・否
原料薬品貯蔵所			適・否
運搬	容器	収納物に合った材料を使用しているか。また蓋の取付けに異常はないか。	適・否
	手押車	ゴム車輪等で衝撃を緩和できる構造か。	適・否
搬通路	路面は平坦であるか。		適・否
検査を指揮監督した保安責任者による記名、押印			④